



平成26年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年5月8日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社ハマキョウレックス
コード番号 9037 URL <http://www.hamakyorex.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大須賀 秀徳

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理部長 (氏名) 内山 宏

TEL 053-444-0054

定時株主総会開催予定日 平成26年6月18日

配当支払開始予定日

平成26年6月19日

有価証券報告書提出予定日 平成26年6月18日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 機関投資家・アナリスト向け

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期の連結業績(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期	91,968	3.4	5,916	1.3	6,121	2.8	3,066	△1.1
25年3月期	88,943	△0.9	5,838	△7.5	5,956	△6.0	3,101	△5.3

(注) 包括利益 26年3月期 3,537百万円 (△3.6%) 25年3月期 3,670百万円 (△3.5%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
26年3月期	367.09	—	10.9	7.0	6.4
25年3月期	371.24	—	12.2	6.9	6.6

(参考) 持分法投資損益 26年3月期 一百万円 25年3月期 一百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期	89,164	33,962	33.0	3,521.09
25年3月期	86,920	31,215	31.0	3,221.62

(参考) 自己資本 26年3月期 29,412百万円 25年3月期 26,910百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
26年3月期	6,143	△1,962	△3,944	4,990
25年3月期	5,343	△1,875	△2,745	4,753

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
25年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00	334	10.8	1.3
26年3月期	—	21.00	—	21.00	42.00	350	11.4	1.2
27年3月期(予想)	—	22.00	—	22.00	44.00	—	—	—

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	45,000	1.3	2,900	11.6	3,000	11.4	1,600	31.6	191.54
通期	92,000	0.0	6,500	9.9	6,600	7.8	3,400	10.9	407.03

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期	8,356,000 株	25年3月期	8,356,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期	2,891 株	25年3月期	2,812 株
③ 期中平均株式数	26年3月期	8,353,150 株	25年3月期	8,353,188 株

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、連結財務諸表に対する監査手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「(1) 経営成績に関する分析」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

当社は、平成26年5月20日(火)に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。

当日使用する決算説明資料は、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。また、この説明会の要旨は後日当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	2
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	4
(4) 事業等のリスク	4
2. 企業集団の状況	5
3. 経営方針	6
(1) 会社の経営の基本方針	6
(2) 目標とする経営指標	6
(3) 中長期的な会社の経営戦略	6
(4) 会社の対処すべき課題	6
(5) その他、会社の経営上重要な事項	7
4. 連結財務諸表	8
(1) 連結貸借対照表	8
(2) 連結損益及び包括利益計算書	10
(3) 連結株主資本等変動計算書	12
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	14
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	16
(継続企業の前提に関する注記)	16
(会計方針の変更)	16
(セグメント情報等)	16
(1株当たり情報)	18
(重要な後発事象)	18
6. その他	19
(1) 役員の異動	19

1. 経営成績・財政状態に関する分析

(1) 経営成績に関する分析

①当期の経営成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の経済政策の効果により、企業収益の改善がみられ、個人消費に関しても消費税増税を前にした駆け込み需要の影響により堅調に推移いたしました。しかしながら、実態経済には未だ勢いは見られず、海外経済の不確実性も高いため、依然として景気の先行きは予断を許さない状況です。当業界におきましても、不透明な状況が続いております。

こうした中、当企業グループの当連結会計年度は、営業収益919億68百万円（前年同期比3.4%増）、営業利益59億16百万円（同1.3%増）、経常利益61億21百万円（同2.8%増）、当期純利益30億66百万円（同1.1%減）となりました。

各セグメント別の営業状況は、次のとおりであります。

(物流センター事業)

当連結会計年度の営業収益は、439億6百万円(前年同期比3.0%増)、営業利益は42億3百万円(同5.2%減)となりました。

増収減益の主な要因は、前連結会計年度までに受託したセンターが順次業績に寄与したものの、既存物流センターの物量減少等によるものであります。

新規受託の概況につきましては、年間15社の受託目標に対し、15社の物流を受託致しました。また、稼働状況につきましては、前期受託した5社を含めた20社のうち18社稼働しております。残りの2社におきましては、平成26年5月以降の稼働を目指し準備を進めてまいります。物流センターの総数は、新規受託による増加と既存荷主の減少により75センターとなりました。

引続き日々収支、全員参加、コミュニケーションを徹底して行い、収支改善に向け取り組んでまいります。

(貨物自動車運送事業)

当連結会計年度の営業収益は、480億61百万円(前年同期比3.7%増)、営業利益17億11百万円(同22.5%増)となりました。

営業収益増加の主な要因につきましては、新規顧客の獲得、景況感の回復及び増税前の駆け込み需要による物量増に加え、運賃値上げ交渉によるものであります。

営業利益におきましては、燃料価格の高止まり、ドライバー及び配送車両の不足による外注費の上昇など厳しい環境ではありましたが、営業収益の増加と日々管理の継続により増加しております。

今後、消費税増税後に一時的な貨物の減少が予想されておりますが、近物レックス株式会社において、運賃値上げ交渉を継続し、グループや同業との相互取引を推進することで収益性の向上を図ってまいります。

②次期の見通し

今後の見通しにつきましては、消費税増税後の景気減速懸念、燃料価格の高止まり、高速道路料金の一部の割引廃止等により厳しい状況が続くと思われまます。

このような環境の中、当社の主力である物流センター（3PL）事業を中心にコスト削減の提案を継続し、新規受託に向け積極的な営業を進めてまいります。また、既存の物流センター及び、運送事業におきましても、更なる業務効率化を推進してまいります。

当社において重要なキーワードであります、「日々収支」「全員参加」「コミュニケーション」の既存路線を踏襲した上で、更なる高みを目指し、挑戦を続けてまいります。

平成27年3月期の業績見通しといたしましては、連結営業収益920億円（前年同期比0.0%増）、連結営業利益65億円（同9.9%増）、連結経常利益は66億円（同7.8%増）、連結当期純利益は34億円（同10.9%増）を見込んでおります。

次期見通しにおける軽油単価につきましては、最近の情勢をもとに計算しております。なお、軽油単価の変動による影響につきましては、1リットル当たりの単価1円の変動により、年間30百万円の影響となります。また借入金の変動による影響につきましては、金利0.1%の変動により年間20百万円の影響となります。

(2) 財政状態に関する分析

①資産、負債に関する分析

当企業グループの当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末比22億44百万円増加し891億64百万円となり

ました。これは主に、現金及び預金、受取手形及び売掛金が増加し、流動資産が5億84百万円増加したこと、設備投資等により固定資産が16億59百万円増加したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末比5億2百万円減少し、552億2百万円となりました。これは主に、短期借入金、未払法人税等が減少し、流動負債が18億43百万円減少したこと、リース債務、退職給付に係る負債が増加し、固定負債が13億41百万円増加したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末比27億46百万円増加し、339億62百万円となりました。これは主に、当期純利益30億66百万円の計上と剰余金の配当による減少3億42百万円によるものであります。この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の31.0%から33.0%へと増加しております。

②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下資金という）は、前連結会計年度末より2億36百万円増加し49億90百万円になりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、61億43百万円の資金獲得となりました。これは主に税金等調整前当期純利益57億11百万円、退職給付に係る負債の増減額49億2百万円、減価償却費33億9百万円がそれぞれ増加し、退職給付引当金の増減額49億39百万円、法人税等の支払額24億18百万円、負ののれん償却額2億3百万円がそれぞれ減少したことによるものであります。これにより営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ8億円資金獲得が増加しております。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、19億62百万円の資金使用となりました。これは主に有形及び無形固定資産の取得による支出19億31百万円の資金使用によるものであります。これにより投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ87百万円資金使用が増加しております。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、39億44百万円の資金使用となりました。これは主に長期借入による収入36億64百万円の増加と、長期借入金の返済による支出49億28百万円、短期借入金の純増減額8億15百万円、リース債務の返済による支出14億46百万円がそれぞれ減少したことによるものであります。これにより財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ11億99百万円資金使用が増加しております。

③次期の見通し

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金当調整前当期純利益の増加額により65億円の獲得を見込んでおります。また、投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資計画を勘案し60億円の支払を見込んでおります。

（参考）キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成22年3月期	平成23年3月期	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期
自己資本比率	23.1	24.8	28.4	31.0	33.0
時価ベースの自己資本比率	25.2	23.6	28.2	37.5	26.0
キャッシュ・フロー対有利子負債比率	10.8	7.3	5.9	6.9	5.9
インタレスト・カバレッジ・レシオ	7.2	11.7	15.5	14.5	19.9

（注）自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

1. 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により算出しております。
2. 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。
3. キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。
4. 営業キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いにつきましては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用してお

ります。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要な課題と位置付けており、株主資本の充実と経営基盤の確立に努めつつ、安定的な配当を行う方針であります。内部留保資金につきましては、今後の物流センター等の設備資金に充当し、更なる事業の拡大に役立ててまいりたいと考えております。

当期末配当金につきましては、先行き不透明であることから内部留保を重視し、1株につき21円を予定しております。なお、中間配当金21円を含めた年間配当金は42円を予定しております。

また、次期につきましては、1株当たり中間配当金22円、期末配当金22円の年間44円を予定しております。

(4) 事業等のリスク

連結財務諸表等に影響を及ぼす可能性のあるリスクは、決算短信提出日現在において、次のようなものがあります。

① 1年更新の物流契約による影響

契約期間が1年で、「双方異議申し出がない場合は、更に1年自動延長するものとする」となっている契約が多くあります。したがって、契約解消リスクが1年更新時ごとに存在しており、業績と財務状態に影響を及ぼす可能性があります。このリスク管理として、「一取引先の営業収益は全体の10%以内に分散し、影響を軽微なものにする」ことを基本としており、現在、営業収益における割合が10%以上を占める大口のお取引先様は一つもありません。また、取引中止があってはならないよう「信頼される物流体制の維持・向上」に努力しております。

② 特有の法的規制違反による影響

過積載等の違反を犯した場合、累積件数により貨物自動車運送事業法による車輛停止・事業の停止、許可の取消処分等の罰則を受ける場合があります。事業停止を受けた場合は業績に大きく影響を及ぼします。これらの管理として安全衛生委員会等の会議を毎月開催し、指導徹底を図っております。

③ 災害等による影響

物流センター等の営業拠点は東海地区に点在しております。万一、東海地震の発生がありますとお取引様はもとより業績にも多大な影響が見込まれます。東海地震に限りませんが自然災害等による被害の影響を最小限に抑えるべく、設備等の耐震性対策、ネットワーク構築、車輛出動態勢、緊急連絡網等の予防策を講じております。

④ 原油価格の変動

営業用車輛の燃料として軽油を使用しておりますが、原油価格・為替レートの変動により軽油の購入価格が変動いたします。

⑤ 金利の変動

営業拠点の新設や車輛の代替のために、継続的な設備投資を行っております。有利子負債の削減には努めておりますが、運転資金及び設備資金は主に金融機関からの借入によっております。借入の金利固定化を進めておりますが、変動金利にて調達している資金については、金利変動の影響を受けます。また、金利の変動により、将来の資金調達コストが影響を受ける可能性があります。

⑥ システムダウンによる影響

当企業グループでは、センター業務、運送管理等をシステムにて管理しております。災害やコンピューターウイルス等によりシステムがダウンまたは破壊された場合、業務に多大な被害を受ける可能性があります。被害を防御、および最小限に抑えるべく、ウイルス対策やデータのバックアップ等の予防策を講じております。

⑦ 情報漏洩による影響

当企業グループでは、物流業務受注に際し、お取引先様の情報を取り扱っております。情報の漏洩やデータ損失の事態が生じた場合、損害賠償請求等により業績に影響を受ける可能性があります。コンプライアンスや情報管理の徹底を社内教育により図っております。

2. 企業集団の状況

当企業グループは、当社及び子会社19社で構成され、物流センター事業をコアとする3PL物流と貨物自動車運送事業を主な業務とし、それぞれグループ内において相互に連携を図り、事業活動を展開しております。

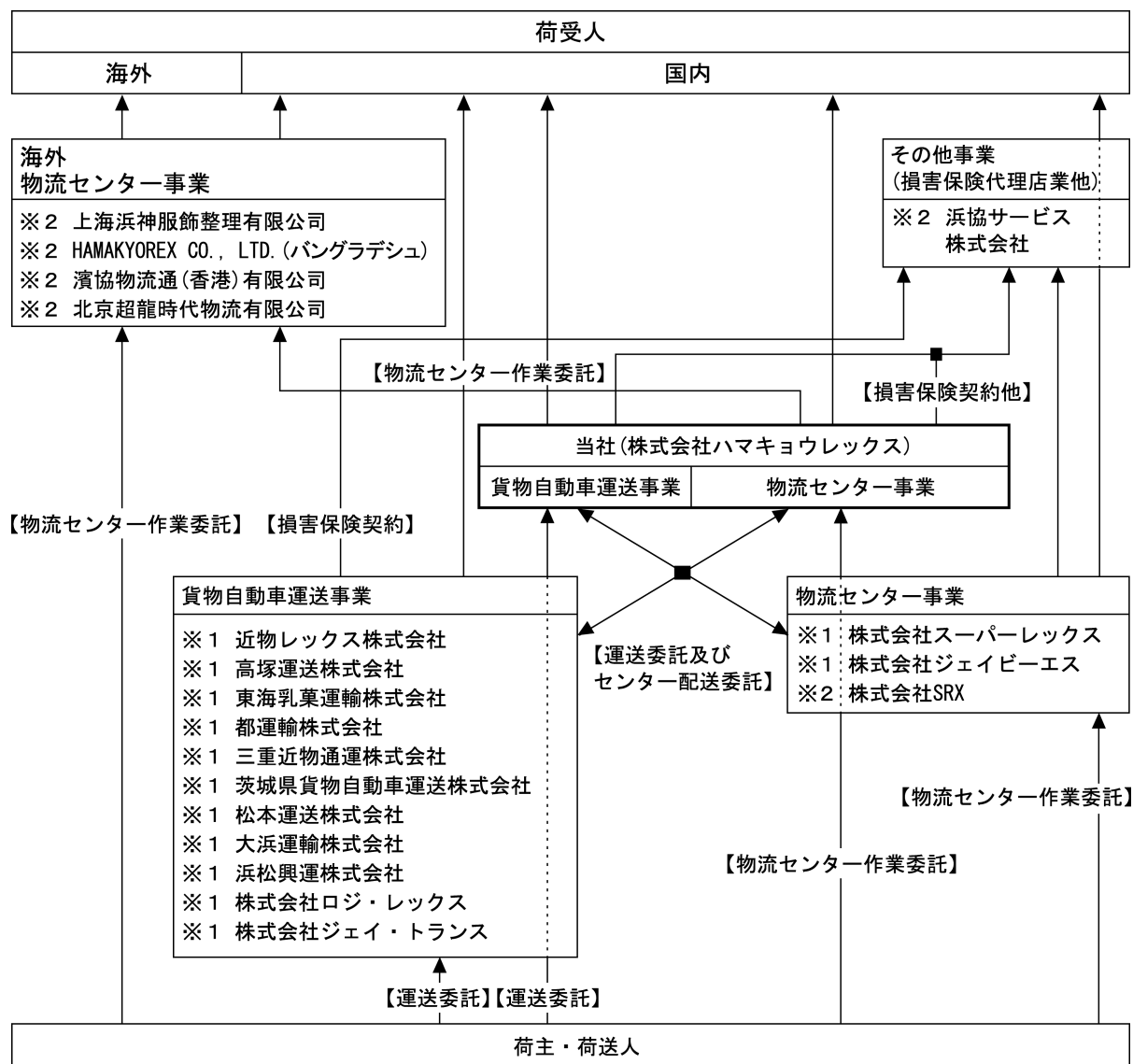
当企業グループの事業に係る位置づけ及び事業の種類別セグメントの連携は次のとおりであります。

事業の種類別セグメント	会社
物流センター事業 貨物自動車運送事業	株式会社ハマキョウレックス(当社)
物流センター事業	株式会社スーパーレックス 株式会社ジェイビーエス
貨物自動車運送事業	近物レックス株式会社 高塚運送株式会社 東海乳菓運輸株式会社 都運輸株式会社 三重近物通運株式会社 茨城県貨物自動車運送株式会社 松本運送株式会社 大浜運輸株式会社 浜松興運株式会社 株式会社ロジ・レックス 株式会社ジェイ・トランス
物流センター事業 ※	株式会社SRX
海外物流センター事業 ※	上海浜神服飾整理有限公司 HAMAKYOREX CO., LTD. 濱協物流通(香港)有限公司 北京超龍時代物流有限公司
その他事業 ※	浜協サービス株式会社

※非連結子会社

事業の系統図は次のとおりであります。

(平成26年3月31日付)



(注) ※1 連結子会社 (13社)
※2 非連結子会社 (6社)

3. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

【経営理念】

当社は、「心」を経営の基本理念としております。

「物」に携わる者として、「人と接するときは、心を込めて」・「仕事をするときは、初心を忘れず前向きに」・「物を扱うときは、心を込めて丁寧に」・「物を運ぶときは、心を込めて安全に」・「如何なるときにも感謝の心を大切に」を基本テーマに取組んでおります。

【経営方針】

物流の役割は駅伝でいえば最終ランナー、地味ではあるが信頼された重要な存在。当企業グループは信頼に応じて効率的な事業活動の展開と継続的で質の高い成長を図り、お客様第一、品質第一を基本に、企業としての社会的責任を果たしてまいります。また、短期的な収益にとらわれず、長期的な視点に立った経営を行い、3PL物流における質的内容の日本一を目指します。

(2) 目標とする経営指標

当企業グループは、株主持分単位当たりの成長性及び収益体質の強化を重視する観点から、1株当たり当期純利益（EPS）及び営業収益経常利益率を経営指標としており、平成26年3月までの具体的な目標値は、次のとおりであります。

なお、具体的な取組みにつきましては、「(4)会社の対処すべき課題」に記載のとおりであります。

経営目標	23年3月期 実績	24年3月期 実績	25年3月期 実績	26年3月期 実績	27年3月期 計画
1. 1株当たり当期純利益（EPS） （円）	306.90	392.18	371.24	367.09	407.03
2. 営業収益経常利益率 （%）	6.7	7.1	6.7	6.7	7.2

（注）1株当たり当期純利益は、1株当たり当期純利益に関する会計基準等に基づいて算出しております。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

①既存路線を軸とした事業展開

物流センター（3PL）事業を成長ドライバーとした拡大戦略をとってまいります。

お客様とのコミュニケーションを重視し、提案型物流企業を目指してまいります。

②3つのキーワードを中心とした取組みの継続

当社が重要視している、「日計収支」、「全員参加」、「コミュニケーション」の3つのキーワードを徹底し、更なる高みを目指し挑戦してまいります。

③物流センター（3PL）事業とグループ会社間の融合

各社の既存業務にとらわれず、グループ内のインフラ・ノウハウ・人員を有効活用し、事業展開を図ってまいります。

④新規顧客獲得に向けた取組み

既存の組織・職務・各グループ会社にとらわれず、グループ全体での新規顧客獲得にむけた営業を行ってまいります。

⑤海外展開について

海外への進出につきましては、日本国内の顧客への満足度向上のためニーズに応じた海外展開を図ってまいります。

(4) 会社の対処すべき課題

① 収益体質の強化

収支日計の取組み強化や、より効率的なシステム提案等によって既存センターの効率アップを図るとともに、センター立上時の初期コスト低減および早期安定稼働を図るため、各支社・管理部を含めた全社を挙げたサポート強化を図ってまいります。また、グループ間の更なる情報共有化を進め、業務品質の向上、グループ間取引の拡大、

インフラの有効活用によるシナジー効果を強めてまいります。

② 顧客満足度及び物流品質の向上

全員参加による顧客訪問の徹底や組織変更等により、お客様とのコミュニケーションをより強化してまいります。小ロット翌日午前配送や在庫を持たないスルー型物流等、時代の変化とともにお客様のニーズも変化しております。この変化するニーズを的確にとらえ、スピード感のある問題解決型の提案をし、お客様へ“気付き”をご提供できるよう努力してまいります。また、クレーム発生の日々管理を組織的に行い、グループ全体の知恵を結集して、迅速な対応、物流品質の向上を目指します。

③ 新規顧客の開拓

営業推進担当を中心に、より積極的な新規営業を実施してまいります。その取組みとして、新たに外部協力会社を発掘し、新規顧客の開拓をしてまいります。また、グループ間での情報交換を組織的に行い、グループ全体での共同営業活動を実施し、グループ全体での収益確保に向け取り組んでまいります。目標として、每期15社以上の新規受託を目指します。

④ 人材の確保と育成

従来どおり、OJTを中心とした人材育成を行ってまいります。グループ全体を対象とする社内研修「大須賀塾」の継続、センター長試験の充実、更には中途採用枠の積極設定により、次代を担う人材の確保と育成に努めてまいります。また、人材派遣の自社雇用化を促進し、より生産性の高い体質を構築してまいります。

⑤ 管理体制の充実・強化

日々管理を再度周知徹底するとともに、各支社・管理部が管轄にとらわれることなく相互に連携し、多角的にサポート・管理監督を行ってまいります。また、不正経理の再発防止のため、更なる管理強化、内部統制・コンプライアンスの遵守を徹底し、健全な企業体質を構築してまいります。

⑥ 環境問題への取組み

地球温暖化防止の取組みといたしましては、事業用車両の排出ガス削減のため、車両の積載効率の向上による使用車両数の削減を図るとともに、車両の点検整備を強化いたします。また、環境配慮車両の導入を促進し、排出ガスの削減に取り組んでまいります。

(5) その他、会社の経営上重要な事項

該当事項はありません。

4. 連結財務諸表

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,080	5,349
受取手形及び売掛金	11,752	11,878
商品	2	2
貯蔵品	123	114
繰延税金資産	781	351
その他	1,013	1,640
貸倒引当金	△29	△27
流動資産合計	18,724	19,309
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	48,519	48,545
減価償却累計額	△25,425	△26,587
建物及び構築物(純額)	23,094	21,957
機械及び装置	1,260	1,672
減価償却累計額	△752	△902
機械及び装置(純額)	507	769
車両運搬具	10,077	9,181
減価償却累計額	△9,899	△9,022
車両運搬具(純額)	177	159
土地	34,416	34,931
リース資産	6,540	7,939
減価償却累計額	△3,006	△3,024
リース資産(純額)	3,533	4,915
建設仮勘定	-	219
その他	2,127	2,090
減価償却累計額	△1,850	△1,860
その他(純額)	276	229
有形固定資産合計	62,005	63,182
無形固定資産		
投資その他の資産	2,028	2,056
投資有価証券	1,139	1,143
長期貸付金	12	18
長期前払費用	64	50
敷金及び保証金	1,661	1,799
繰延税金資産	865	1,199
その他	468	451
貸倒引当金	△49	△47
投資その他の資産合計	4,161	4,615
固定資産合計	68,195	69,855
資産合計	86,920	89,164

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,888	5,971
短期借入金	21,740	20,040
リース債務	1,222	1,394
未払法人税等	1,279	1,087
未払消費税等	371	323
賞与引当金	592	612
役員賞与引当金	46	42
その他	3,101	2,925
流動負債合計	34,242	32,398
固定負債		
長期借入金	11,449	11,070
リース債務	2,529	3,774
繰延税金負債	1,151	1,488
退職給付引当金	4,939	-
退職給付に係る負債	-	5,263
役員退職慰労引当金	423	460
負ののれん	314	111
その他	654	634
固定負債合計	21,462	22,804
負債合計	55,704	55,202
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,045	4,045
資本剰余金	3,951	3,951
利益剰余金	18,853	21,577
自己株式	△8	△8
株主資本合計	26,841	29,565
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	69	106
退職給付に係る調整累計額	-	△259
その他の包括利益累計額合計	69	△153
少数株主持分	4,305	4,550
純資産合計	31,215	33,962
負債純資産合計	86,920	89,164

(2) 連結損益及び包括利益計算書

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業収益	88,943	91,968
営業原価	80,918	84,020
営業総利益	8,025	7,948
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	6	0
役員報酬	418	393
給料及び手当	540	514
賞与引当金繰入額	61	46
役員賞与引当金繰入額	48	45
退職給付費用	29	27
役員退職慰労引当金繰入額	66	59
租税公課	159	160
その他	858	783
販売費及び一般管理費合計	2,187	2,032
営業利益	5,838	5,916
営業外収益		
受取利息	1	2
受取配当金	26	27
受取賃貸料	22	76
受取手数料	60	63
固定資産売却益	84	128
負ののれん償却額	203	203
助成金収入	72	29
売電収入	-	76
雑収入	90	126
営業外収益合計	562	734
営業外費用		
支払利息	368	308
固定資産除売却損	28	29
売電原価	1	54
雑損失	45	136
営業外費用合計	443	529
経常利益	5,956	6,121

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
特別利益		
契約解除補償金	-	50
資産除去債務取崩益	-	11
特別利益合計	-	61
特別損失		
固定資産除却損	-	41
減損損失	-	30
投資有価証券評価損	6	7
損害賠償金	-	93
和解金	-	233
契約解除に伴う損失	-	52
賃貸借契約解約損	-	13
特別損失合計	6	471
税金等調整前当期純利益	5,950	5,711
法人税、住民税及び事業税	2,516	2,230
法人税等還付税額	△6	△446
法人税等調整額	△135	433
法人税等合計	2,375	2,216
少数株主損益調整前当期純利益	3,575	3,495
少数株主利益	474	428
当期純利益	3,101	3,066
少数株主利益	474	428
少数株主損益調整前当期純利益	3,575	3,495
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	94	42
その他の包括利益合計	94	42
包括利益	3,670	3,537
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	3,182	3,103
少数株主に係る包括利益	487	434

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 平成24年4月1日至 平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,045	3,951	16,078	△8	24,066
当期変動額					
剰余金の配当			△325		△325
当期純利益			3,101		3,101
自己株式の取得				—	—
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	2,775	—	2,775
当期末残高	4,045	3,951	18,853	△8	26,841

	その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	△12	—	△12	3,908	27,961
当期変動額					
剰余金の配当					△325
当期純利益					3,101
自己株式の取得					—
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	81	—	81	396	478
当期変動額合計	81	—	81	396	3,253
当期末残高	69	—	69	4,305	31,215

当連結会計年度(自 平成25年4月1日至 平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,045	3,951	18,853	△8	26,841
当期変動額					
剰余金の配当			△342		△342
当期純利益			3,066		3,066
自己株式の取得				0	0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	2,723	0	2,723
当期末残高	4,045	3,951	21,577	△8	29,565

	その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	69	—	69	4,305	31,215
当期変動額					
剰余金の配当					△342
当期純利益					3,066
自己株式の取得					0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	36	△259	△222	245	22
当期変動額合計	36	△259	△222	245	2,746
当期末残高	106	△259	△153	4,550	33,962

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	5,950	5,711
減価償却費	3,092	3,309
負ののれん償却額	△203	△203
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△5	△4
賞与引当金の増減額 (△は減少)	15	20
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	0	△3
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	12	△4,939
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	-	4,902
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	64	37
受取利息及び受取配当金	△27	△29
支払利息	368	308
固定資産除売却損	28	70
有価証券評価損益 (△は益)	6	7
売上債権の増減額 (△は増加)	△241	△117
仕入債務の増減額 (△は減少)	△434	83
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△78	△23
損害賠償損失	-	93
その他の資産・負債の増減額	△73	△308
その他	△59	△47
小計	8,412	8,865
利息及び配当金の受取額	27	29
利息の支払額	△372	△308
損害賠償金の支払額	-	△51
法人税等の支払額	△2,752	△2,418
法人税等の還付額	27	26
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,343	6,143
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△492	△591
定期預金の払戻による収入	559	575
有形固定資産の取得による支出	△1,268	△1,629
有形固定資産の売却による収入	96	130
無形固定資産の取得による支出	△197	△302
投資有価証券の取得による支出	△3	0
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△282	-
敷金の差入による支出	△352	△236
敷金の回収による収入	38	72
貸付けによる支出	△33	△38
その他	59	58
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,875	△1,962

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△4,169	△815
長期借入れによる収入	7,937	3,664
長期借入金の返済による支出	△4,945	△4,928
自己株式の純増減額 (△は増加)	-	0
配当金の支払額	△325	△342
少数株主への配当金の支払額	△90	△100
リース債務の返済による支出	△1,152	△1,446
その他	-	24
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,745	△3,944
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	722	236
現金及び現金同等物の期首残高	4,030	4,753
現金及び現金同等物の期末残高	4,753	4,990

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、当連結会計年度末より適用し(ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。)、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用を退職給付に係る負債に計上いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る負債が52億63百万円計上されております。また、その他の包括利益累計額が2億59百万円減少しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、物流センター運営及び貨物輸送のサービスを提供しており、サービス別に包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。また、実際のサービスは、それぞれ担当する各センター・子会社を通じて提供しておりますが、同一のサービスを提供するセンター・子会社の経済的特徴は概ね類似しております。したがって、当社は、各センター・子会社を集約したサービス別のセグメントから構成されており、「物流センター事業」及び「貨物自動車運送事業」の2つを報告セグメントとしております。

「物流センター事業」は、センター運営及びセンター配送を行っております。また、「貨物自動車運送事業」は、一般貨物運送、特別積み合わせ貨物運送を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成のために採用している会計処理基準に基づく金額により記載しております。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	連結損益及び包 括利益計算書計 上額 (注)2
	物流センター 事業	貨物自動車運送 事業	計		
営業収益					
(1) 外部顧客に 対する営業収益	42,607	46,336	88,943	—	88,943
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	623	1,385	2,009	△2,009	—
計	43,231	47,721	90,953	△2,009	88,943
セグメント利益	4,434	1,396	5,831	6	5,838
セグメント資産	29,792	52,122	81,915	5,005	86,920
セグメント負債	7,240	45,812	53,053	2,651	55,704
その他の項目					
減価償却費	1,209	1,810	3,020	8	3,029
のれん償却費	19	5	25	—	25
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,038	1,143	2,181	897	3,079

注1 営業収益及びセグメント利益に記載の調整額は、全てセグメント間取引消去によるものであります。

注2 セグメント資産及びセグメント負債における調整額は、全て全社資産によるものであります。なお、全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない現金及び預金、本社建物等であります。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	連結損益及び包 括利益計算書計 上額 (注)2
	物流センター 事業	貨物自動車運送 事業	計		
営業収益					
(1) 外部顧客に 対する営業収益	43,906	48,061	91,968	—	91,968
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	482	1,322	1,805	△1,805	—
計	44,389	49,384	93,773	△1,805	91,968
セグメント利益	4,203	1,711	5,914	2	5,916
セグメント資産	31,354	52,110	83,465	5,699	89,164
セグメント負債	7,317	44,901	52,218	2,983	55,202
その他の項目					
減価償却費	1,320	1,875	3,196	9	3,205
のれん償却費	11	5	17	—	17
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,053	2,135	4,189	481	4,671

注1 営業収益及びセグメント利益に記載の調整額は、全てセグメント間取引消去によるものであります。

注2 セグメント資産及びセグメント負債における調整額は、全て全社資産によるものであります。なお、全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない現金及び預金、本社建物等であります。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり純資産額	3,221.62円	3,521.09円
1株当たり当期純利益金額	371.24円	367.09円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	—	—

(注) 1. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	3,101	3,066
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	3,101	3,066
普通株式の期中平均株式数(株)	8,353,188	8,353,150

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	31,215	33,962
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	4,305	4,550
(うち少数株主持分)	(4,305)	(4,550)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	26,910	29,412
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	8,353,188	8,353,109

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権、新株予約権付社債の発行及び自己株式方式のストックオプションがないため記載しておりません。

4. 「会計方針の変更」に記載のとおり、退職給付会計基準等を適用し、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っております。この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産額が、31.02円減少しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

5. その他

(1) 役員の変動

①役員の変動

1. 新任取締役候補

取締役(社外) 足立 邦彦

(注) 足立邦彦氏は、平成26年6月18日に行う定時株主総会での選任予定の候補者であります。

2. 新任監査役候補

監査役(社外) 杉山 利明

(注) 杉山利明氏は、平成26年6月18日に行う定時株主総会での選任予定の候補者であります。

3. 退任予定監査役

監査役(社外) 坪井 成司

(注) 坪井成司氏は、平成26年6月18日の定時株主総会をもって退任予定であります。

②その他の変動(昇格)

1. 平成26年6月1日付け変動

執行役員 開発統括部 部長	山岡 毅(前 開発統括部 部長)
本社営業統括部 輸送事業部 部長	野嶋 法弘(前 本社営業統括部 本社営業部次長)

2. 平成26年4月1日付け変動

中部支社 広域ロジスティクス営業部次長	増田 健佑(前 中部支社課長)
中部支社 第二ロジスティクス営業部課長 兼 横浜メディカルセンター長	村松 直(前 横浜メディカルセンター長)
内部統制室 課長	阿佐比 淳二(前 内部統制室係長)
相模原営業所 所長	佐野 元一(前 相模原営業所係長)
東京有明センター長	栗原 達矢(前 東京有明サブセンター長)
綾瀬センター長	佐々木 孝志(前 綾瀬サブセンター長)
藤沢第一センター長	千葉 紀彦(前 藤沢第一サブセンター長)
藤沢第二センター長	島谷 孝文(前 藤沢第二センターOR部門責任者)
麻生センター長	山本 和幸(前 麻生サブセンター長)
豊川第一・第二センター長	永井 伸吾(前 豊川第一・第二サブセンター長)